

国土マネジメントと江戸

海外交易からみた江戸の位置



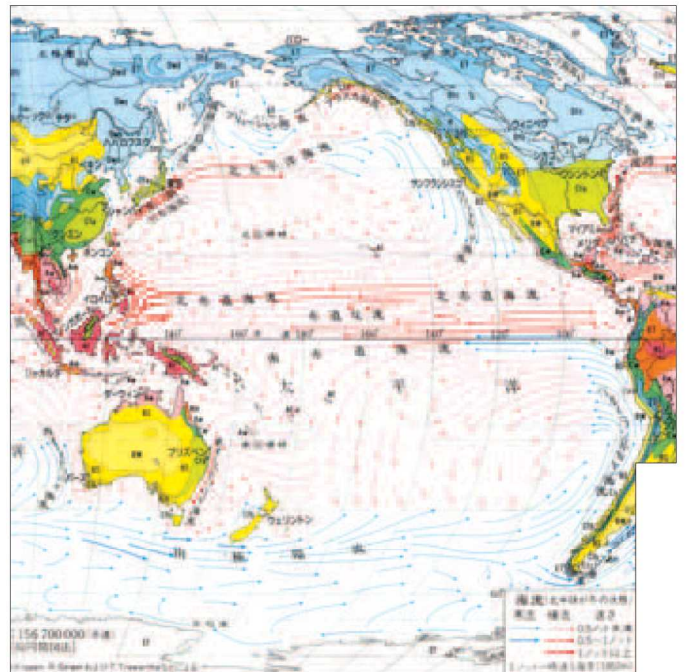
家康は、キリスト教の布教は禁止したが、積極的な海外交易、特にメキシコとの交易を志向していた。

年号	西暦	
慶長 3	1598	家康、宣教師ジェロニモにスペインとの交渉を依頼。(スペイン人を関東に寄港させ、メキシコ貿易のための造船技術を日本人に教えることを要望)
5	1600	オランダ船リーフデ号漂着、乗組員ジェームス・アダムス(三浦接針)が家康配下となる。アダムスはその後、浦賀で二隻の船を建造。
6	1601	家康、メキシコとの修好を希望していることをマニラの総督に書簡で伝える。
15	1610	アダムスが建造した船で、上総(千葉県)に漂着した前フィリピン臨時総督代理ドン・ロドリゴ達と共に、京都商人田中勝介ら日本人22人がメキシコに向かう。6月に出発し、10月にメキシコのアカプリコに到着。將軍秀忠のスペイン国王宛の書状も持参された。
16	1611	メキシコ副王使節ビスカノー、田中らを伴ってガレオン船サンフランシスコ号で浦賀に入港。この後、ビスカノーは、伊達藩の海岸を測量。
17	1612	太平洋横断を試みようとした幕府の日本船(船員はスペイン人)が浦賀で難波。サンフランシスコ号も別のところで破損。
18	1613	牡鹿半島月の浦から支倉使節が出航。幕府の船手奉行・向井将監の家臣、その他大勢の日本人と、ビスカノー他のスペイン人が乗船。イギリス国王ジェームス一世の国書持参のセーリス、平戸に入港。北西航路発見を目指す(?)
元和 2	1616	家康死去

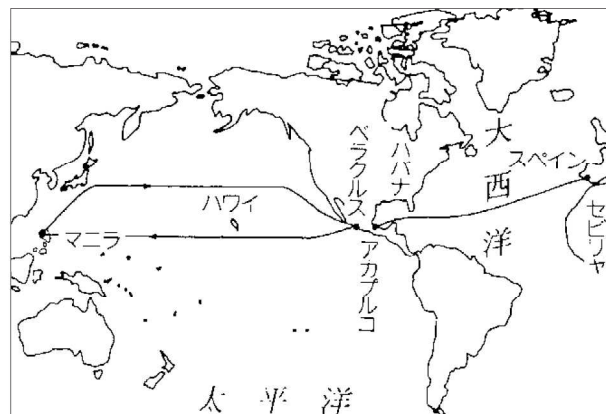
■太平洋航路からみた江戸(関東)の位置

スペインが、マニラからメキシコに行く太平洋東行路を発見したのは永祿8年(1565)である。太平洋を横断する黒潮(日本海流)を発見したのだが、黒潮は犬吠埼の沖から東・東北に向きを変えていた。この黒潮は、紀伊半島から犬吠埼沖に至る間で、数週間~数ヶ月の単位で変化する。しかしいずれにしても犬吠埼沖に流れてきてその後、東の方向に向かう。この黒潮に乗るのには、関東東が好位置であった。

家康は、関ヶ原の戦い後の慶長8年(1603)、幕府を関東の江戸に開いたが、太平洋交易の志向から、江戸の有利性を見ていたのではないかとの大胆な仮説である。

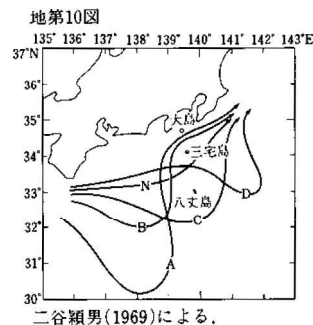


海路図(『詳解現代地図』二宮書店 2003から転載)



スペイン・ポルトガル人世界航路(『慶長遣欧使節』松田毅一著 朝文社 1992から転載)

黒潮流路の変化



黒潮流路の変化(『理科年表2003』国立天文台編 丸善 2002から転載)

九州東岸から四国南方を通り北上する黒潮は、紀伊半島から房総沖に至る間では、数週間~数ヶ月の単位で変化的なことが多く、左図は代表的なパターンである。
N型: 本州南岸に沿ってほぼ直進(東流)する。
A型: 紀伊半島・遠州灘沖で30°N付近まで大きく南方へ蛇行する。
B型: 中小規模の蛇行が遠州灘沖にある。
C型: 中小規模の蛇行が伊豆諸島海域にある。(流路が八丈島の南にある)。
D型: 中小規模の蛇行が房総沖にある。